

2 研究開発の経緯と内容

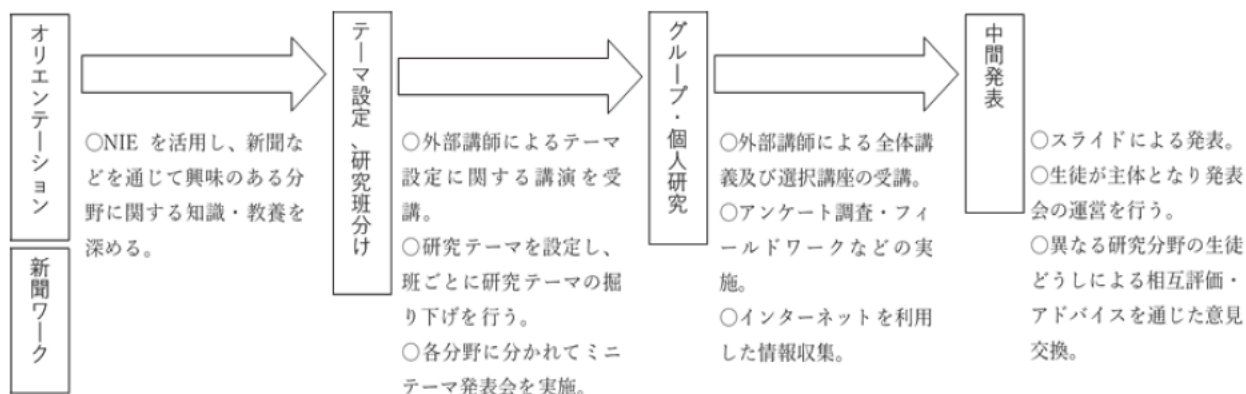
(1) 特色ある科目の取り組み

I 普通科

① 総合的な探究の時間

科目の目標	1. SDGs のテーマに基づく教科横断的・総合的な学習を通じて教養を深め、幅広い視野を養う。 2. 地域の社会課題と自己との関わりを見出し、課題を設定し、解決に向け他人と協働できる課題解決能力を養う。 3. 探究活動の研究成果をスライドやポスターにまとめ、発表会で発表する事により、表現力を養う。
学習内容	(1)オリエンテーション (2)外部講師による講演・講義 (3)新聞ワーク (4)グループ・個人研究 (5)アンケート調査、フィールドワークなど (6)校内における研究成果の発表
担当教員	企画担当：探究推進委員長、同副委員長、各学年付 3 名、学年外 5 名（計 10 名） ＊週に 1 回、委員会を開き打ち合わせを行う。 授業担当：探究推進委員長、学年団 9 名、学年外 4 名 計 13 名
対象生徒	普通科 2 年生（GR 除く）244 名
評価方法	授業に取り組む姿勢、研究内容、研究発表、成果物

活動概念図



a 経緯

期 日	学習活動	内 容
自宅学習		
令和2年5月	スタディサプリ	・自宅でスタディサプリの講義を視聴し、探究学習 へ向け物事を多角的に観察する視野を養う。
分散登校期間		
令和2年6月1日	オリエンテーション (分散登校A班)	・オリエンテーション (ビデオオンデマンド形式) ・プレ新聞ワーク
令和2年6月8日	オリエンテーション (分散登校B班)	・オリエンテーション (ビデオオンデマンド形式) ・プレ新聞ワーク
通常登校		
令和2年6月15日	新聞ワーク①	・第1回新聞ワーク ワークシート作成
令和2年6月22日	新聞ワーク②	・第1回新聞ワーク 回し読みによる発表
令和2年6月29日	新聞ワーク③	・最新ニュースのまとめ動画の視聴 ・第2回新聞ワーク ワークシート作成
令和2年7月6日	新聞ワーク④	・第2回新聞ワーク 回し読みによる発表
令和2年7月13日	新聞ワーク⑤	・第3回新聞ワーク ワークシート作成・発表 ・第1次研究テーマ調査 (個人)
令和2年7月30日	研究テーマ設定①	・講演「はじめての探究 世界と地域と私の接点」 講師 神戸大学教授 石川慎一郎氏 ・第2次研究テーマ調査 (個人)
令和2年8月17日	研究テーマ設定②	・第2次研究テーマの希望調査を元に班分けを行う ・班ごとに研究テーマ、研究計画を作成 ・第3次研究テーマ調査 (班)
令和2年8月24日	研究テーマ設定③	・班ごとに研究テーマ、研究計画を作成 ・担当教員による面談
令和2年9月14日	研究テーマ設定④	・分野別ミニテーマ発表会
令和2年9月28日	テーマ研究①	・講演「探究を進める上での調査と実験の注意点」 講師 神戸大学准教授 林創氏
令和2年10月5日	テーマ研究②	・研究計画作成 ・グループ・個人研究
令和2年10月12日	テーマ研究③	・選択講座「文献研究について」 講師 親和女子中学校・高等学校校長補佐 勝山元照氏 ・グループ・個人研究 (アンケート調査、FW などを含む) *インターネット検索スペース (家庭経営室) の設置
令和2年10月26日	テーマ研究④	・グループ・個人研究 (アンケート調査、FW などを含む) ★Google Forms テーマ研究 (8月～10月) ふりかえり *インターネット検索スペース (家庭経営室) の設置
令和2年11月2日	テーマ研究⑤	・グループ・個人研究 (アンケート調査、FW などを含む) *学びのイノベーション (surface、Wi-Fi) の導入
令和2年11月9日	テーマ研究⑥	・グループ・個人研究 (アンケート調査、FW などを含む)

令和2年11月16日	テーマ研究⑦	・選択講座「探究を進める上での分析・考察の注意点」 講師 神戸大学准教授 林創氏 ・グループ・個人研究 (アンケート調査、FW などを含む)
令和2年12月14日	テーマ研究⑧	・グループ・個人研究 (アンケート調査、FW などを含む) ・中間発表準備
令和3年1月18日	テーマ研究⑨	・グループ・個人研究 (アンケート調査、FW などを含む) ・中間発表準備 ★Google Forms テーマ研究 (11月～1月) ふりかえり
令和3年2月1日	中間発表リハーサル	・中間発表準備 ・中間発表リハーサル
令和3年2月8日	中間発表①	・スライドを用いた発表
令和3年2月22日	中間発表②	・スライドを用いた発表 ★Google Forms 1年間のふりかえり

b 内容

本年度の活動は生徒が選択した下記の A～J の分野に分かれて活動を行った。なお、A～J の各分野は SDGs の 17 のターゲットを本校の基準で整理したものである。また、学習のふりかえりや生徒向けのアンケート調査では Google Forms を活用した。授業進度や内容を合わせるため、探究推進委員会が授業担当者へ毎回の授業ごとに授業案を含む担当者資料(資料①)と生徒資料を作成し配布した。

SDGs に基づく分野

A : 貧困と飢餓 B : 健康と福祉 C : 教育とジェンダー平等 D : 水 E : エネルギー
F : 持続可能な経済 G : まちづくり H : 自然環境 I : 平和 J : パートナリシップ

↓ 資料① 担当者資料の一例 (A3 判見開き)

2021年2月1日

2020年度 ひょうたん 担当者資料 21

グループ研究⑨

●担当

各テーマの教室割り当て

教室	SDGs アーミー (グループ数)	生徒数	担当
2年1組	A 貧困と飢餓(2) H 自然環境(9)	37	例田・波部
2年2組	B 健康と福祉(8) J パートナリシップ(1)	31	藤野・山岸
2年3組	D 水(5) I 平和(6)	32	宮城・輪野
2年4組	E エネルギー(8)	30	西崎・(松木)
2年5組	G まちづくり(11)	42	旭・中本
2年6組	C 教育とジェンダー平等(9)	33	渡井・(佐井)
2年7組	F 持続可能な経済(10)	39	永瀬・山本
第1 STEAM	GR	34	並川・澤田

全体統括：岩見・佐井・菊木

●準備

資料①グループ研究活動シート (A4)
②タブレット PC、資料 (生徒が各自で準備)、グループ研究計画シート
③HDMI ケーブル(5m)、HDMI ハブ、司会進行者確認リスト
★生徒向け資料①と②は 8 限中に副主任・学年外担当の職員室机の上に配布

●授業の流れ (別紙参照)

●その他 タブレット PC の接続方法



タブレット PC → HDMI ハブ → HDMI ケーブル → プロジェクターと接続します。
(写真では接続部が分かりやすいよう、押し込んでいますが、実際に使用する際には奥まで押し込むよう生徒にご指導ください。)

74 回生 第 19 回 総合的探究の時間 (略案)

日時：2月1日 月曜日 6 限目
場所：2年1組～7組 HR
準備：グループ研究計画シート、グループ研究活動シート、資料、タブレット PC、スマホ (必要に応じて)

時間	生徒の動き (グループ研究)	教員の動き (グループ研究)
14:05	●机前、授業開始までにパソコンに PC を取りに行く。 ●グループごとに着席 ●出欠確認 各グループのリーダーが点呼を取り、教室担当教員に報告する。 ●配布物を受け取る ・先週のグループ活動シートを見ながら本時の流れの確認	●出欠確認 各グループのリーダーに出欠確認をさせて、報告を受ける。出欠ボードに転記する。 ●資料①を配布。 ・リハーサルの流れについて先週のグループ活動シートを見ながら確認するよう指示。 (原稿読み合わせ、想定質問の準備、スライドの動作確認など) ・中間発表に向けて今日決めること ①進行係 (司会1名、タイムキーパー1名) →決定後、担当教員に報告 ②発表順に対する質問者
14:10	●各組3分程度で、順番にスライドの動作確認を実施する。 ●その他の準備を行う ★GR リハ見学者は時間になったら第1 STEAM へ	●スライドの動作確認をサポートする。 ●司会進行確認リストに集約する ★GR リハ見学者は時間になったら移動させる。見学者が終わったら教室へ戻るよう指示。
14:50	●PC の個人アカウント、履歴の削除 ●今回の発表場所と持ち物の確認と PC の返却	●PC の個人アカウント、検索履歴の削除 ●次時の確認 ・次回は教室に掲示されている中間発表の教室割り当てを確認し、各教室に集合。教室の2列目より後ろに、グループごとに集まって着席しておく。 ・筆記用具、探究ファイル (これまでの活動シートと発表に必要な資料)、タブレット PC、タイムキーパー (タイムキーパー・スマホ可)、スマホ (解凍入力用)

令和2年5月 「スタディサブリ」

新型コロナウイルス感染症対策により、本年度は4月～5月の2か月間、自宅学習の期間となった。その間、本格的な探究学習を始める前に教養を深めるため、スタディサブリの『地球目線で考える「触れる地球」講座（全5回）』を自宅学習課題として視聴し、その内容をワークシート（資料②）にまとめた。ワークシートは学校再開後、初回の授業で提出した。

令和2年6月1日、8日 オリエンテーション（写真①）

分散登校のため、オリエンテーションを2回（出席番号前半・後半）に分けて実施した。生徒は1年次に選択したSDGsを元にした分野ごとに教室に分かれて、探究推進委員会の作成した動画によるビデオオンデマンド形式でオリエンテーションを受けた。オリエンテーションの後、「日本経済新聞(2019年10月18日)高校生向け特別版」を使ったプレ新聞ワークに取り組み、次週より始まる新聞ワークのデモンストレーションを行った。

令和2年6月～7月 「新聞ワーク」

探究学習の導入として、情報収集力や問いを立てる力を育成するために新聞ワークを実施した。

<NIE 推進事業>（写真②）

本校は、兵庫県 NIE 推進協会より 2020（令和2）年度 NIE 推進事業指定校に指定され、一般社団法人日本新聞協会の「新聞提供事業」により6～7月に朝日、毎日、読売、日経、産経、神戸の計6紙（朝刊・夕刊）の提供を受けた。第2学年のHRフロアに「NIE 新聞閲覧コーナー」を設置し、生徒が自由に新聞を手にとることができるようなスペースを設け、新聞ワークにおいて、これらの新聞を活用した。

<最新ニュースのまとめ動画>（写真③）

高校生にとって身近な最新の時事問題に対して理解を深めるため、探究推進委員会の作成したニュースをまとめた動画を授業の冒頭で各教室のモニターを使い視聴した。



<新聞ワーク>

新聞ワークはワークシート（資料③）の作成と少人数での発表の2回を1セットとして計2回行った。

ワークシートの作成（写真④）

資料③のワークシートに新聞記事の内容をまとめて、考察を深めた。必要に応じてインターネット検索ができるよう、各自のスマートフォンの使用を許可した。

- ・新聞記事は家庭で購読、NIE 事業により提供された新聞記事を各自で事前に準備したものを使用。
- ・ワークシートの作成と少人数での発表の2回を1セットとして計2回実施。

↓資料② 一部抜粋

74 冊生（普通科2年） 「総合的な探究の時間」（ひょうたん）

自宅学習：地球目線で考える「触れる地球」講座

本年度より本格的に始まる「ひょうたん」の内容や進め方については、学校再開後の授業にてオリエンテーションを行います。本格的な探究学習を始める前に教養を深めるため、スタディサブリの地球目線で考える「触れる地球」講座（全5回）を視聴し、以下の要領で学習を進めよう。

・スタディサブリについて

5/18～22 の期間にスタディサブリに“宿題”として上記の講座を配信するので、各自スタディサブリにログインして確認してください。

・ワークシートについて

視聴メモ：講義の内容のまとめ、欄に決ったフレーズやキーワードなどを記入。

自分の意見・考え：視聴メモの内容に関する自分の意見や考えを記入。講義を視聴する前後で、変化した意見などが書ければ更に良い。

講師：竹野真一氏について

文芸人兼作家。東京大学大学院文芸学系博士課程修了。京都府立芸術大学教授。地球時代の新たな「人間学」を提唱しつつ、世界的なデジタル地球「触れる地球」の企画・開発など、ITを駆使し地球規模で環境やエネルギー問題を考える独自の取り組みを進めている。

第1課 なぜ「触れる地球」を創ったのか？ ～地球時代のメディアデザイン～

月	日
視聴メモ	自分の意見・考え

第2課 私たちは毎日、地球を食べている？ ～ひとつながりの世界～

月	日
視聴メモ	自分の意見・考え

↓左から写真①、②、③

[illegible]

←資料③ 左：表面 右：裏面



↑上から写真④、⑤

↓ 資料④

ワークシートの発表 (写真⑤)

前時に作成したワークシート（資料③）を少人数のグループで、お互いに回し読む事で情報共有する。

- ・ 回し読みで得た情報をふりかえりシート（資料④）にまとめる。
- ・ ワークシート作成者へのアドバイスをコメントシートに記入、交換。
- ・ 班内で回し読みをした記事の感想を 1 人 1 分程度で発表し、班ごとにベストレポートを選出。

令和2年7月～9月 「研究テーマ設定」

各自の選択した分野の中で、研究課題を見つけ研究テーマの絞り込みを行った。初めに、各個人で研究課題を設定し、研究テーマを具体化するため外部講師による講演会を受講。その後、研究テーマの再調査及び今後の研究活動形態の希望調査を実施した。夏季休暇明けより、全 10 分野 69 班に分かれ各班の研究テーマを絞り込んでいった。

＜第1次研究テーマ調査（令和2年7月13日）＞

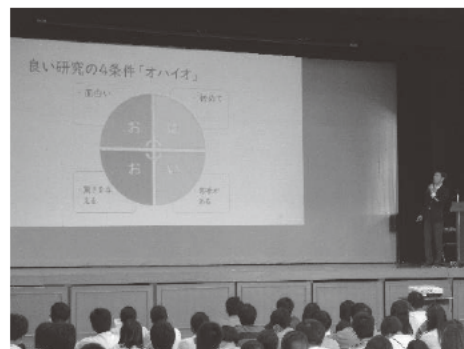
新聞ワークを終えて、2 学期以降、現時点で考える各自が研究したいテーマを Google Forms に入力。

＜外部講師講演（令和2年7月30日）＞

場所：本校講堂（対面） 対象：全体
講演：「はじめての探究 世界と地域と私の接点」
講師：神戸大学大学教育推進機構教授 石川慎一郎氏

講演：「はじめての探究 世界と地域と私の接点」

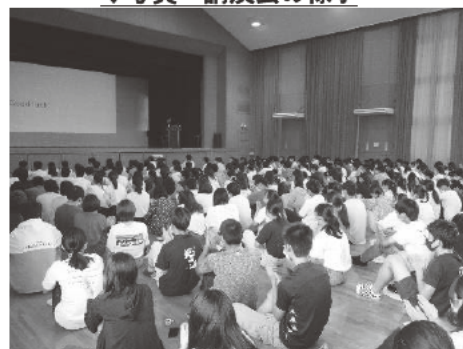
講師：神戸大学大学教育推進機構教授 石川慎一郎氏

[illegible]

↑写真 講演会の様子

上記のタイトルで、探究テーマの設定に関する講演会を実施した。石川教授より、「良い研究」を理解する→「テーマ」を探す→「手法」を多元化する、という成功する探究の3つのステップをお示し頂いた。また、直前に行った第1次研究テーマ調査の内容を踏まえたテーマ設定に関するアドバイスを頂いた。更に、将来の進路もイメージしながら、SDGsのテーマを地域の課題に絞り込んでいく方法をご指導頂いた。講演会終了後、感想及び質問をGoogle Formsに入力。

↓写真 講演会の様子



* 生徒感想（一部抜粋）

- ・人は知っていることには驚かなくて、知らなすぎることに驚かないことがわかった。だから、既知のものの知らないことを狙うのが大切だと分かった。
- ・サイズ感がとても大事で、抽象的にではなく、具体的に細かく明瞭に解決策を提示できるようなサイズで探求することが良い、というのが分かりました。
- ・今までは探求と言えばグローバル的な問題を調べるものだと思っていたけど、神戸市の身近な問題を深く探求することで地域社会に貢献できるということも知れて、自分の研究が周りの人のためになるなら頑張ろう、と思うことが出来ました。

<第2次研究テーマ調査（令和2年7月30日）>

石川教授の講演会を受けて、以下のような内容の研究テーマ調査を行った。基本的には、夏季休業中に各個人が考えた仮テーマをもとに、研究班を決定。

調査内容

- (1)研究の進め方について・・・1.グループ（4人程度） 2.個人
- (2)グループ分けについて・・・1.自分たちで決める 2.探究推進委員会に任せる
- (3)(2)で1を選択した場合、研究メンバーの情報
- (4)現時点で考えている研究テーマについて

写真 班分けの様子



活動場所	SDGs テーマ（研究班数）	生徒数
2年1組	A 貧困と飢餓(2) H 自然環境(9)	37
2年2組	B 健康と福祉(8) J パートナリーシップ(1)	31
2年3組	D 水(5) I 平和(6)	32
2年4組	E エネルギー(8)	30
2年5組	G ₁ まちづくり(11)	42
2年6組	C 教育とジェンダー平等(9)	33
2年7組	F 持続可能な経済(10)	39

表①

＜研究班の決定とテーマ設定＞

夏季休業中に Google Forms の調査結果を集計し、探究推進委員会で班分けを行った。夏季休暇明け初回の授業で、班の再調整を行い 10 分野全 69 班に分かれた。(表①。うち個人研究 2 班。) その後、班ごとにテーマ決定シートに沿って研究の大枠を設定し、担当の先生方との面談、ミニテーマ発表会を経て、研究テーマの絞り込みを行った。

令和 2 年 9 月～令和 3 年 1 月 「グループ・個人研究」

中間発表会までの研究計画を立案し、各班でインターネットや新聞などによる文献調査、アンケート調査、フィールドワーク、実験などの実践活動を実施した。必要に応じて担当教員からアドバイスやサポートを受けながら研究を進めた。また、探究学習のスキルを向上させるため、研究倫理や研究手法などに関するセミナーに適宜参加した。

＜アンケート調査、フィールドワーク＞

授業時間内や課外の時間を使ってアンケート調査、フィールドワーク、実験などを実施した。教員の引率を伴わないため、活動内容について事前に企画書(資料⑤)を作成し、担当教員に電話対応の窓口となってもらったなどの教員のサポートの下で実施した。

アンケート調査及びフィールドワーク実施の流れ

(1) 企画書の作成

(2) 担当教員・探究推進部による内容の確認

＊必要に応じて(1)(2)を繰り返す

(3) 担当教員・探究推進部による実施の許可

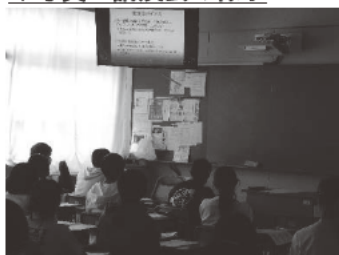
(4) 実践活動

↓資料⑤ 企画書(アンケート調査版)

「総合的な探究の時間」アンケート企画書		紙番号:	紙張:
企画書の下部の欄に記入し、担当の先生方のチェックを受けて下さい。 ※一部のアンケートには①～④の内容を記載する。			
アンケートの概要		対象人数: 約	対象期間:
①タイトル: 内容を簡潔に書く			
②調査者名・実施者名: 所属と名前を記入 ※必ず、SNS を利用する場合は個人情報取り扱いに注意する。 ※所属を学校とする			
③アンケートの目的 私は、この度「総合的な探究の時間」の授業で (何～何) について調査しています。その中で、(フランク) さん			
④アンケートの答え方: 不明・疑問は、該当する番号 1 つに○をつけて下さい。			
⑤アンケートの質問文と選択肢			
⑥アンケートの締め切り日 ⑦調査結果の取り扱いについて このアンケートの調査内容は、研究の目的以外で利用いたしません。調査にご協力ありがとうございました。			
担当者チェック			☐

＜外部講師講演(令和 2 年 9 月 28 日)＞

↓写真 講演会の様子



場所: 各教室(ビデオオンデマンド) 対象: 全体

講演: 「探究を進める上での調査と実験の注意点」

講師: 神戸大学院人間発達環境学研究科准教授 林創氏

上記のタイトルで、林准教授に講義動画を作成して頂き、各教室で視聴した。講義では、研究倫理に関わる内容について社会科学の実験の具体例をいくつか提示しながら解説して頂いた。また、調査方法についてはアンケート調査の手法を質問文の作り方から丁寧に指導頂いた。講演会終了後、感想及び質問を Google Forms に入力。

* 生徒感想(一部抜粋)

- ・聞き方によって印象が変わり結果に影響されることがあるというのは、例を見てとても実感しました。そのことをふまえると、普段の日常生活であっても、相手になにか質問するときなど、聞き方や言葉の選択に気をつけなければな、と感じました。
- ・今回この講演で学んだことを生かして、インタビューまたは実験をする際は、第三者の視点に立ち、公正な意見を集められるよう配慮したいです。
- ・アンケートなどをする時のポイントも教えていただき、自分がなんとなくかっこつけてしまったり、変に大人ぶって複雑な言い回しをしてしまったりしそうなので、とても役に立つ内容でした。

<外部講師講演（令和2年10月12日）>

↓写真 講演会の様子



場所：会議室（対面） 対象：希望者

講演：「文献研究について」

講師：親和女子中学校・高等学校校長補佐 勝山元照氏

文献研究を中心に探究活動をしている生徒を対象とした選択講座として上記のタイトルで、講義をして頂いた。勝山先生の講義では、探究学習を進めるにあたって、単なる調べ学習に終わらせないために史資料を批判的に読み解く方法についてご指導頂いた。解説の際には、生徒たちの理解が深まるよう、身近な「神戸」に関する史資料を具体例に挙げながら説明をして下さった。講演会終了後、感想及び質問を Google Forms に入力。

*生徒感想（一部抜粋）

- ・今回紹介していただいた歴史の資料等に興味を持ったので、思いきってテーマを変えるということも視野にいれてチームで話し合ってみようと思います。
- ・批判的意見と言うものにどこか攻撃的なイメージを持っていましたがそれは非難であったということが分かりました。今後資料を比較する中で非難的な意見を発信しないようにしたいと思います。
- ・過去の歴史資料から事実を読み取り、自らの仮説を裏付ける根拠にするといった基礎的な内容が、自分たちの探究にも活用できるなと思いました。

<外部講師講演（令和2年11月16日）>

↓写真 講演会の様子



場所：PC 教室（ビデオオンデマンド） 対象：希望者

講演：「探究を進める上での分析・考察の注意点」

講師：神戸大学院人間発達環境学研究科准教授 林創氏

アンケート調査やインタビューを中心に探究活動をしている生徒を対象とした選択講座として、9月28日の「探究学習の手法」に引き続き、上記のタイトルで、林准教授に講義動画を作成して頂き、PC 教室で視聴した。講義では、収集したデータを効果的に提示する手法やデータの分析方法をさまざまな図、グラフなどの具体例を提示しながら丁寧に分かり易く解説して下さい。講演会終了後、感想及び質問を Google Forms に入力。

*生徒感想（一部抜粋）

- ・アンケートの取り方だけでなく、アンケートを取った後それをどう生かすかや、結果を表すグラフをどのように作れば良いかなどの、詳しいことまで知ることができました。
- ・漠然とアンケートをとろうとしていたので、何のためにアンケートをするのかももっとよく考えようと思いました。アンケートの選択肢はなんとなくありそうな答えを挙げただけになっていたもので、仮説を立てて論理的に進めていかなければならないとわかりました。

令和3年2月 「中間発表会」

本年度の探究学習の成果を各班 MicrosoftOffice365 や G Suite を利用してスライドにまとめ、surface と各教室に設置されたプロジェクターを活用して以下の要領で中間発表を実施した。1回目の発表会後、2回目の発表会に向け、客観的に自分たちの発表を振り返り、スライドや内容を精査する班もあった。今回の中間発表は次年度の完成発表に向けて研究を深化させる良いステップとなった。

<中間発表リハーサル（令和3年2月1日）>

場所：2年1組～7組 HR

中間発表が生徒主体でスムーズに進行できるよう、中間発表要領を記載したワークシート（資料⑥）を配布し、次のような内容でリハーサルを行った。

- ・グループ内での役割分担の決定（司会、進行係（タイムキーパー）、発表班に対する質問者）
- ・発表原稿の読み合わせ、発表時間の調整
- ・想定質問の検討とその回答の準備
- ・PC 接続テストおよびスライドの動作確認

- ・希望者は GR の発表会準備を見学した。

↓資料⑥ 中間発表要領抜粋

1 教室あたり、分野の異なる 4～5 班を 1 つの発表グループとし、発表会を実施した。中間発表①と中間発表②では発表グループを組み替え、より多くの人に見てもらうことにより様々な視点からの評価、アドバイスや意見交換を行った。質疑については、1 つ前の発表班は必ず 1 つ質問をする事とした。但し、最初の発表班への質問は最後の発表班が質問を行う。評価については発表会当日に配布したワークシート（資料⑦）に記載されたループリックに基づいて行った。当日は事前に配布した実施要領（資料⑥）と司会進行ナレーション台本に従って、生徒が中心となり各教室の担当教員のサポートを受けながら、発表会を実施した。

- ・司会及びタイムキーパーは1つ前の発表班のメンバーが行う
- ・発表会の最後に Google Forms を使い、アドバイスシートの内容を入力する

↓写真 中間発表会の様子

英語の重要性

・国際に暮らす際、英語が必須
 ・ITの発展が英語の需要を高める

それにより海外で働くことが
 できるようになる。英語を学べ。

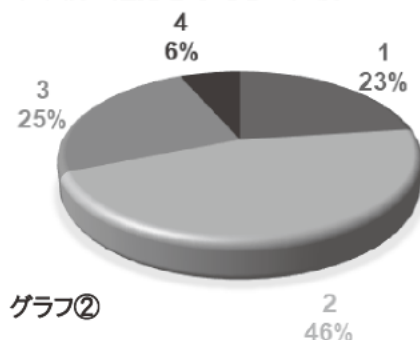
c 成果と課題

冒頭に挙げた科目の目標1～3に関して、年度末に Google Forms を使い、生徒に対する意識調査を実施した。以下は結果の一部を抜粋し、分析したものである。各グラフ内の1～4は1「思わない」～4「思う」の評価となっている。

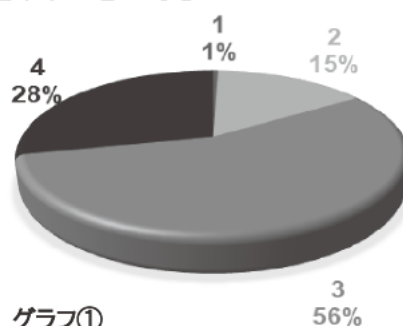
目標1に関する項目（グラフ①～③）

新聞ワークや実践活動により、教養や知識を身に付けることができたと感じている生徒が多かった。また、グラフにはないが、FW などを通じて訪問や電話をかける際のマナーなどを社会常識身に付けることができた。しかし、研究分野及び研究テーマについては、各自の興味に応じて選択できていた反面、進路との関連性が低くなっていた。同様に、通常の教科学習と探究学習の重なりを感じさせることのできる機会も不十分だった。

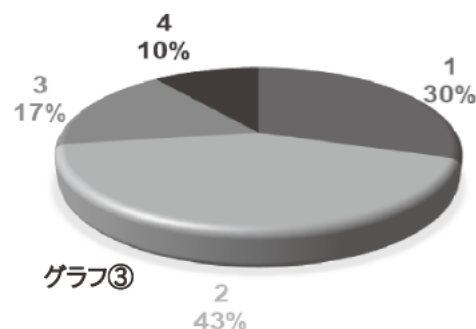
卒業後の進路を考えるのに役立った



新聞ワークを通じて自身の教養や知識を増やすことができた



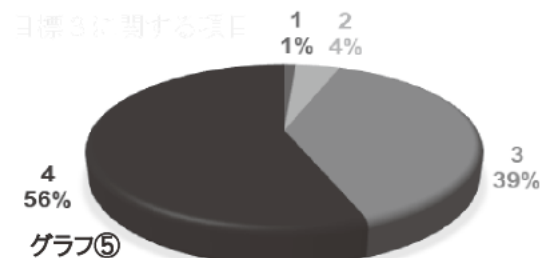
テーマは自分の進路と関係している



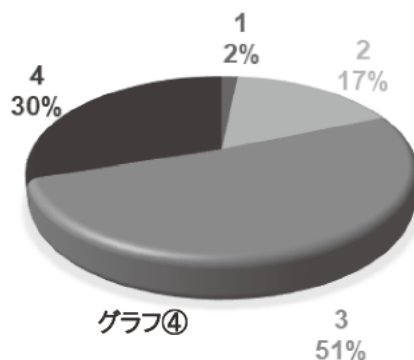
目標2に関する項目（グラフ④～⑥）

外部講師の先生方の講義により、「地域の課題」を意識してテーマ設定ができている。また、班で協力し、生徒らが主体となって実践活動を運営できている。FW についても、課外時間や休日に実験を実施したり、飲食店を訪問したり、メールや FAX などを使い、アンケート調査を実施するなどの実践活動が見られた。一方で、各班の中間発表のテーマ一覧に挙げたテーマの中には、抽象的なものや言葉選びに慎重を要するものもあり、班ごとに研究テーマの深化のレベルに大きな差が出ていた。

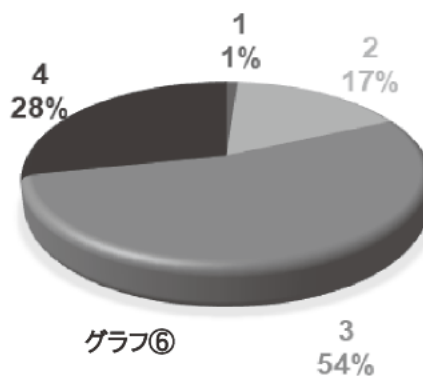
グループで協力できた



地域の課題解決につながるテーマを設定できた

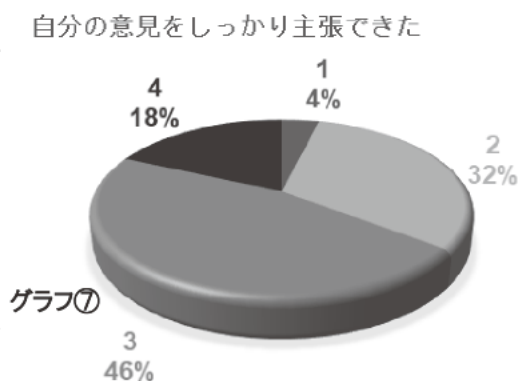


自主的に活動を進めることができた



目標3に関する項目（グラフ⑦）

短い準備期間の中で、実践活動やスライドの作成に取り組み、中間発表では全ての班がスライドによる発表を実施できた。発表内容については、右図の意識調査の結果にもあるように約8割が2～3と回答しており、生徒ら自身も研究テーマに対する知識不足や発表の準備不足を感じている。



令和3年度に向けて

次年度の「総合的な探究の時間Ⅱ」については、より実践活動を充実させるため、本年度の実施状況を鑑みて(1)早い時期のテーマ設定、(2)研究の指導体制の見直し、(3)生徒の探究学習スキルの向上をふまえたカリキュラムの更新を行う。具体策としては、以下の通り。

(1)1年生対象の「総合的な探究の時間Ⅰ」の時間に、令和2年度3学期に導入と動機付けに関する以下の講演会を実施した。加えて次年度当初にも早い時期での講演会を予定し、テーマ設定や実践活動にかける期間を長く確保する。

- ・日時：令和3年1月14日 場所：1年1～8組HR（オンライン） 対象：全体
講演：「はじめての探究 世界と地域と私を結ぶ」
講師：神戸大学大学教育推進機構教授 石川慎一郎氏
- ・日時：令和3年2月4日 場所：1年1～8組HR（オンライン） 対象：全体
講演：「探究×SDGs～正解のない問と共に生きる時代「学び」の作戦変更」
講師：東京都市大学大学院環境情報学研究科教授 佐藤真久氏

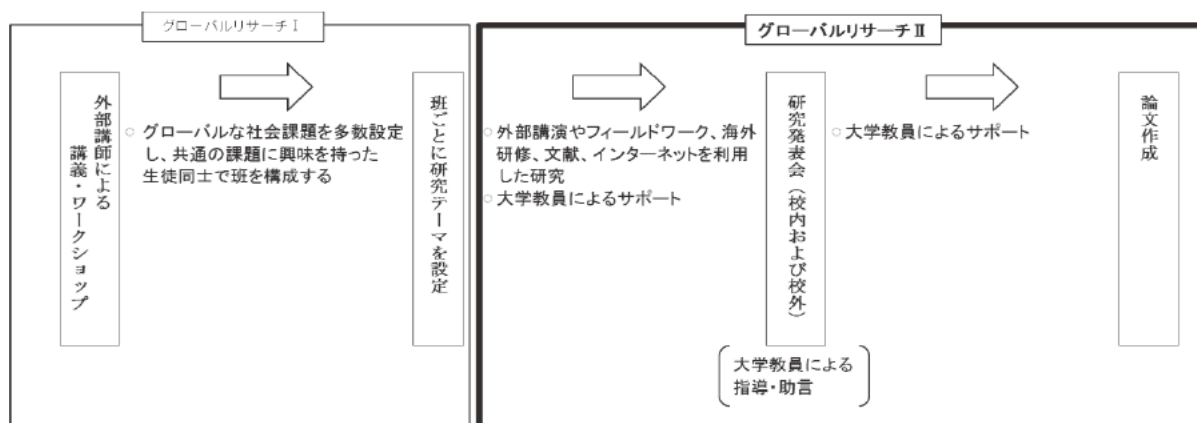
(2) テーマ設定や研究内容について、本年度はヒアリングの回数や内容を担当教員任せにしてしまったため、次年度は面談の実施時期や内容、FWの企画と実施について、探究推進部から詳細案を発信し、担当教員が具体的なイメージを持って授業に臨めるようサポートする。

(3)本年度は選択講座として単発で実施していた研究手法や研究倫理に関する講義を全生徒対象に、特定の時期にまとめて実施する。また教員が生徒と共に講義に参加する事で、同時に担当教員のアカデミックスキルの向上にもつなげる。

② グローバルリサーチ

科目の目標	グローバルな社会課題から課題を設定し、グループ活動を通じて、コミュニケーション能力を養いながら国際問題に対する関心を深め、自ら主体的に学ぶ力を育成する。また、論文作成を通じて、課題に対して、多角的な視点をもって分析し、解決のための方策を筋道立てて考える力を育成する。
学習内容	(1) 外部講師による講義・ワークショップ (2) グループディスカッション・フィールドワークによる課題研究 (3) 校内・校外発表用資料作成とプレゼンテーション (4) 関係諸機関職員等との意見交換 (5) テーマについて個人で論文の作成（グローバルリサーチⅢに続く）
担当教員	STEAM 教育推進委員長、同副委員長、英語科、地歴公民科、ALT
対象生徒	普通科第1学年 31 名、2 学年 34 名、3 学年 40 名
評価方法	授業に取り組む姿勢、研究内容、研究発表、成果物

活動の概念図



a 経緯

グローバルリサーチⅠ（1年）

期 日	内 容
令和2年9月3日	新聞ワーク
令和2年9月14日	講義「英語によるプレゼンテーションの技法」 講師：神戸市外国語大学教授 野村和宏氏
令和2年9月28日	新聞ワーク
令和2年10月12日	講義「新聞はどう生き残るのか？」 講師：日経新聞社神戸支社支局長 堀直樹氏
10月後半～12月は神戸研修として実施	
令和3年1月18日	講義「地元企業の海外進出とコロナ禍における課題」 講師：三ツ星ベルト株式会社 人事部長 倉本信二氏
令和3年2月1日	KOBE 研修ふりかえり発表会
令和3年2月8日	講義「コロナ禍における外国人住民の課題」 講師：多文化共生センターひょうご代表 北村広美氏

グローバルリサーチⅡ（2年）（「総合的な探究の時間内」に実施）

期 日	内 容
令和2年6月1日	テーマ設定
令和2年6月15日	テーマ設定
令和2年6月22日	テーマ設定共有
令和2年6月29日	講義「研究の進め方」 講師：甲南大学サイエンスフロンティア学部教授 甲元一也氏
令和2年7月6日	先行研究と本稿の課題作成(1)
令和2年7月13日	先行研究と本稿の課題作成(2)
令和2年8月4日	第17回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー
令和2年8月17日	先行研究と本稿の課題作成(3)
令和2年8月22日	FW「ひの家ふえ」
令和2年9月25日	FW「神戸市農政計画課」
令和2年9月28日	発表準備
令和2年10月4日	FW「こうべ六甲私有林研究会」
令和2年10月5日	発表準備
令和2年10月12日	テーマ研究発表会
令和2年10月26日	ブラッシュアップ
令和2年11月2日	仮説設定、検証方法(1)
令和2年11月9日	仮説設定、検証方法(2)
令和2年11月14日	学校説明会
令和2年11月16日	中間発表会
令和2年12月14日	ブラッシュアップ
令和3年1月18日	仮説検証(1)
令和3年1月25日	仮説検証(2)
令和3年1月29日	「大阪大学金先生ヒアリング」
令和3年2月1日	「神戸市職員ヒアリング」
令和3年2月1日	「発表会リハーサル」
令和3年2月3日	「WHO 職員ヒアリング」
令和3年2月8日	「中間発表会」（前半）
令和3年2月22日	「中間発表会」（後半）

<研究テーマ>

- 1 班 「移動の制限と国籍～COVID-19 と難民～」
- 2 班 「日英のコロナ対策～自粛要請かロックダウンか～」
- 3 班 「神戸市の児童虐待の現状と改善」
- 4 班 「男性の育児参加の現状とこれから」
- 5 班 「成長都市から学ぶこれからの神戸～福岡市との比較～」
- 6 班 「テレワークによる地域活性化～西神中央駅周辺のにぎわい～」
- 7 班 「市街化調整区域とまちづくり～神戸から 30 分の秘境に迫る！～」
- 8 班 「神戸市の竹害～経済活動と自然保護の両立を求めて～」
- 9 班 「日本における地熱発電の現状と提案～有馬温泉への導入を目指して～」
- 10 班 「韓国の制度を取り入れた介護技能実習生の労働環境の改善について」

グローバルリサーチⅢ（3年）

期 日	内 容
休校期間中	論文作成
令和2年6月15日	論文修正（1）
令和2年6月22日	論文修正（2）、アブストラクト作成
令和2年6月29日	論文修正（3）、アブストラクト英訳
令和2年7月6日	研究のまとめ（1）
令和2年7月13日	研究のまとめ（2）

＜研究テーマ＞

- 1 班 「伝統工芸品の認知拡大と継承の方策について」
- 2 班 「外国人労働者の言語活動に着目した労働環境改善の提言」
- 3 班 「ベトナム・インドネシア・タイ産トリニタリオ種カカオのカカオポリフェノール含量と気候条件に関する研究」
- 4 班 「SNS 活用による神戸のコト消費拡大について」
- 5 班 「年間死者数70万人！？薬の効かない「薬剤耐性菌」の知名度向上の方策」
- 6 班 「批判的思考力を育むローテーション学習について」
- 7 班 「スキルテストと夜間中学活用による難民の言語学習支援」
- 8 班 「有機野菜の購買促進のための方策について」
- 9 班 「京都における観光公害削減の方策」
- 10 班 「パレスチナ・イスラエル問題の考察」

b 内容

＜グローバルリサーチⅠ（1年）＞

令和2年9月3日 「新聞ワーク」

普通科グローバルリサーチⅠ受講生（1年）の初めての授業が行われた。社会問題に関する新聞記事を持参し、お互いに記事の内容を発表し、ディスカッションを行った。生徒は記事について自分の立場を明確にして、白熱した議論をすることができた。将来の研究に向けて、課題設定につながる授業だった。



令和2年9月14日 講義「英語によるプレゼンテーションの技法」

本校講堂において、普通科グローバルリサーチⅠ受講者（1年）と創造科学科5期生（1年）を対象に、神戸市外国語大学教授の野村和宏氏をお招きし講義を行って頂いた。内容は辞書を引く意味やプレゼンテーションの技法、スピーチをする上での注意点などについて、オールイングリッシュで講義をしていた。また、講義の合間に即興スピーチの実践やグループワークも行った。なお、感染予防をしながらの英会話レッスンをするために、今回はマウスシールドを着用して授業を実施した。



令和3年1月18日 講義「地元企業の海外進出とコロナ禍における課題」

本校同窓会館武陽ゆ〜かり館において、普通科グローバルリサーチⅠ受講者（1年）31名を対象に、三ツ星ベルト株式会社の人事部長 倉本信二氏に「地元企業の海外進出とコロナ禍における課題」をテーマにオンラインで講義をしていただいた。初めに三ツ星ベルトの概要や海外進出の現状、自動車業界との関連についてお話をしていただいた。次に「日系企業の海外進出のメリット」をテーマにペアワークを行い、意見を出し合った。続いて、三ツ星ベルトの海外進出の意義とコロナ禍における生産への影響について講義をしていただいた。そして「製造業の新型コロナウイルス対策」についてペアでディスカッションを行い、全体共有後に実際に三ツ星ベルトで行われた対策について倉本氏から解説をしていただいた。



令和3年2月8日 講義「コロナ禍における外国人住民の課題」

本校第一 STEAM ROOM において、普通科グローバルリサーチⅠ受講者（1年）31名を対象に、多文化共生センターひょうご代表北村広美氏に「地域における多文化共生『コロナ禍における外国人住民の課題』」をテーマにオンラインで講義、及びワークショップをしていただいた。初めに多文化共生の概念や在留外国人の現状について講義をしていただいた。続いて、在留外国人の課題となる「制度の壁」「コミュニケーションの壁」「文化の壁」についてお話をしていただき、これら3つに加え「情報の壁」についてその対策を考えるワークショップを行った。生徒からは日常的に子供を呼んだイベントで交流を深めることや、半官半民のHPの作成などの提案があった。



<グローバルリサーチⅡ（2年）>

令和2年6月29日 「研究の進め方」

本校同窓会館ゆ〜かり館において、グローバルリサーチⅡ（2年）の生徒対象に、甲南大学サイエンスフロンティア学部教授の甲元一也氏をお招きし、講義を行った。今回はオンライン会議ツール zoom を使って講義をしていただき、質疑応答はオンライン質問ツール slido を用いた。テーマは「研究の進め方」で、テーマ設定から情報収集、研究計画の策定、データの収集・分析、成果の発信という研究サイクルについて生徒は学習した。



令和2年8月22日 FW「ひの家ふえ」

コミュニティカフェ「ひの家ふえ」にて、グローバルリサーチ受講生（2年）4名が、神戸市北神区役所まちづくり課係長の船引紀利氏とひの家ふえ店主の樋ノ上美和氏からお話を伺った。この班は「神戸の農村への移住」をテーマに研究をしており、船引氏からは「神戸農村スタートアッププログラム」について、樋ノ上氏からは八多町の現状と課題、ひの家フェの取り組みについて話を聞いていただいた。



令和2年10月4日 FW「こうべ六甲私有林研究会」

神戸市北区の有野町唐櫃清水が原山林において、「竹害」をテーマに研究している普通科グローバルリサーチⅡ受講生（2年）1名が、「こうべ六甲私有林研究会」に参加した。午前の部は、清水が原山林と整備実施方針について、下唐櫃林産農協西向山林部長からお話を聞き、現地を見学した。午後の部は、私有林整備に関する支援や活用の可能性について議論し、里山防災林整備区域を見学した。



令和3年1月29日 「大阪大学金先生ヒアリング」

普通科グローバルリサーチⅡ受講生（2年）の生徒3名が、大阪大学高等教育・入試研究開発センター（CHEGA） 高大接続部門 特任助教の金 泓謹氏からオンラインでお話を伺った。生徒は日本の介護技能実習生の法制度について研究しており、金先生からドイツにおける韓国人看護労働者の歴史についてヒアリングした。現代日本とドイツの外国人労働者受け入れについて比較することができ、研究を深めることができた。また、生徒の研究についてもアドバイスをいただいた。



令和3年2月1日 「神戸市職員ヒアリング」

本校第一 STEAM ROOM において、普通科グローバルリサーチⅡ受講生（2年）の生徒3名が、神戸市都市局市街地整備部市街地整備課再開発・にぎわいづくり担当部長の渡邊智明氏からお話を伺った。生徒はテレワークの推進と神戸市西区西神中央駅周辺のにぎわいづくりを関連付けて、まちづくりをしたいと考え、本校OBでもある渡邊氏に意見を求めた。渡邊氏からは、テレワークの経済的なよい面とそうでない面があることや、実際のにぎわいづくりには人的資源が欠かせないことなど、生徒の研究をより多角的に分析できるよう指導をいただいた。



令和3年2月1日 「発表会リハーサル」

本校第一 STEAM ROOM において、普通科グローバルリサーチⅡ受講生（2年）の生徒が、普通科探究（ひょうたん）生徒に対しプレゼンテーションを行った。2月8日と22日に普通科生徒全員が探究学習の発表会を行うが、グローバルリサーチ受講生がデモンストレーションとして発表を行った。



令和3年2月3日 「WHO職員ヒアリング」

普通科グローバルリサーチⅡ受講生(2年)の生徒2名が、WHO神戸センター テクニカル・オフィサーの茅野龍馬氏からオンラインでお話を伺った。生徒は新型コロナウイルス感染症の4月～5月の日本における緊急事態宣言とイギリスにおけるロックダウンを比較し、それらの有効性について研究しており、茅野氏から WHO として各国の取り組みについてヒアリングした。茅野氏からは、当時未知のウィルスであった新型コロナウイルスに対し、結果としてどの程度有効であったのかはまだ評価できる段階ではなく、未だに収束が見通せないことから、各国の国際協調をすすめてワクチン接種を進める等の対策が求められるとアドバイスをいただいた。



c 成果と課題

グローバルリサーチⅠ(1年)について、新型コロナウイルス感染症にともなう休校措置により募集時期が大幅に遅くなり、本格的な活動が2学期からとなった。しかし、新聞ワーク、外部講師による講義やワークショップ、KOBЕ 研修とそのふりかえり発表会と充実した活動を行うことができた。SDGs の理解や探究学習の準備等、次年度のアカデミックな探究学習にスムーズに移行することができた内容となった。

グローバルリサーチⅡ(2年)について、今年度より「総合的な探究の時間」の授業内で実施した。毎週実施することで、探究のプロセスに加え、大学教員による指導を受けることで、アカデミックな探究学習を展開することができた。研究テーマについて、コロナウイルス感染症の影響拡大により練り直しとなり、そのことが、地域課題に寄せたものになってしまった。次年度はSDGsをふまえたテーマ設定になるよう指導したい。

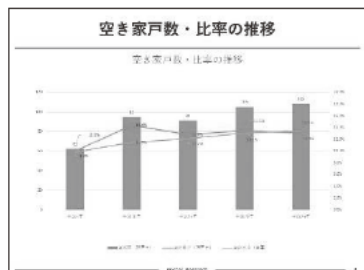
グローバルリサーチⅢ(3年)について、休校期間中の論文作成と休校措置解除後に修正等を行うこととなり、十分な時間をかけて論文指導を行うことができなかった。それでも、休校前に行ってきた研究について、アカデミックライティングの形式に則って論文作成を行うことができた。

成果物

兵庫県立片栗高等学校

市街化調整区域とまちづくり ー神戸から30分の秘境に迫る！ー

74回生
グローバルリサーチ 7 班



背景

③What is 市街化調整区域？

- ・ 自然環境や農地などの保全と共に無秩序な市街化を抑制する区域
- ・ 区域内においても農村地区の良好な魅力ある景づくりを進めるとともに、緑地の豊かな自然環境の保全などを行う

⇒持続可能で神戸らしい都市づくり

同じ市街化調整区域なのに...

どうして淡河町と八多町で 活性化の差が生まれたのか？

映画「るろうに剣心 最終章」のロケ地に

参考文献

神戸市ホームページ<<https://www.city.kobe.lg.jp/>>
国土交通省
<<https://www.mlit.go.jp/common/001107436.pdf>>
映画「るろうに剣心 最終章The final」公式サイト
<<https://www.warnerbros.co.jp/rurouni-kenshin2020/>>

生徒が作成したスライド（グローバルリサーチ 2 年）

はじめに

研究目的

- ・ 人口減少、空き家・空き地問題、過疎化、少子高齢化などの農村地区の課題を神戸に絞って考える
- ・ 自然環境をうまく生かしながらバランスのとれたまちを創る

八多町へ

農村地区の現状

- ・ 少子高齢化
- ・ 人口減少
- ・ 資金不足
- ・ 自治体の維持が困難
- ・ 空き家の増加

↓

一刻も早く町おこしを！

制限の内容

- ・ 政令指定都市には必ず設定
- ・ 全般的に農林水産業などの田園地帯とすることが企図されている
- ・ 地域活性化が目的の商業施設以外は禁止
- ・ 新しい住居の建造や増築なども制限
⇒都道府県知事からの許可が必要

淡河宿本陣跡

幼馴染3人で遊び場だった
空き家の改修を決定

↓

地域の方々や地元の中学生の協力により経費を抑えての改修工事

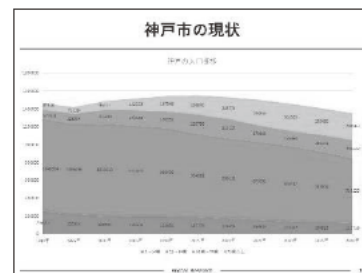
↓

2017年7月1日
本陣カフェchawan オープン

淡河町を訪ねて

③住む人が協力、それぞれの知識・立場を生かす
= 年齢の違う人も、移住してきた人も

- ・ 早い段階で一般財団法人に
- ・ 歴史ある本陣跡が残っており憩いの場に
= 市街化調整区域のメリット



[神戸市 北区 八多町]・・・**途上**
拠点 = ひの家ふえ

<課題>

- ・ 市街化調整区域の制限がネックに
= 大量の書類審査が必要
許可に1年以上かかってしまう

神戸の現状に大きく矛盾！

背景

神戸の主要利用の概要図

黄色と緑と白が市街化調整区域です！

淡河宿本陣跡 町おこしの成果

- ・ 観光客の増加
- ・ 子供の人数の維持
- ・ 若者の流出の防止

- ・ 移住者を食めた町全体の強いコミュニティ形成
- ・ カフェの利益が資金源にはならない

考察

- ・ 市街化調整区域でも街づくりは可能！
⇒「都市化・再開発」のような街づくりの概念を破壊するきっかけに
- ・ 区域内で街づくりを成功させる四箇条
 - ①情報を世代間で共有、連携
 - ②街づくりに参加しやすいコミュニティの形成
 - ③今あるものをフルに活用
 - ④利益に執着しすぎない